

# 自己評価報告書（2019年度）

2020年6月4日現在

北海道エコ・動物自然専門学校

# 目 次

学校の概要 .....	1	基準6 教育環境 .....	13
自己点検・自己評価に対する姿勢 .....	3	基準7 学生の募集と受入れ .....	14
学校関係者評価委員会の構成と意義 .....	4	基準8 財 務 .....	15
教育理念 .....	5	基準9 法令等の遵守 .....	16
学校の目標（今後5年間） .....	6	基準10 社会貢献・地域貢献 .....	17
2019年度の重点目標 .....	7	2019年度重点目標達成についての自己評価 .....	18
基準1 教育理念・目的・育成人材像 .....	8	2020年度の重点目標 .....	19
基準2 学校運営 .....	9		
基準3 教育活動 .....	10		
基準4 学修成果 .....	11		
基準5 学生支援 .....	12		

# 学校の概要

## 1. 学校の設置者

北海道エコ・動物自然専門学校は学校法人滋慶学園が設置する。学校法人滋慶学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人である。

## 2. 開校の目的

エコロジカル（自然や環境との調和）を理念に、人と自然と動物の共生をテーマに動物自然学科・動物看護師学科・ペット学科3学科で、飼育員・自然ガイド・環境調査員・動物看護師・ドッグトレーナー・ペットトリマー等を「動物に学ぶ」教育環境で人材育成をすることで、人と自然と動物の懸け橋なる人材を育成し、職業人教育を通じて社会に貢献する。

## 3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 佐藤 俊

所在地 北海道恵庭市恵み野北西5丁目10-4 連絡先 0123-36-2311

# 学校の概要

## 4. 学校の沿革、歴史

- 1998年 9月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校設置を北海道知事に申請  
11月 北海道知事により認可（学事第594号）
- 2003年 4月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校を開校 ペットビジネス学科を北海道ハイテクノロジー専門学校から独立・移管しアウトドア学科を開設。  
12月 動物実習施設「エコ動物学園」落成
- 2006年 4月 アウトドア学科を観光サービス学科へ改称 ペットビジネス専攻科を開設 12月 インドアスタジアム竣工
- 2008年 4月 日本語学科を開設
- 2009年 3月 HES（北海道環境マネジメントシステムスタンダード）認証HES：0029
- 2010年 10月 第2日本語学科を開設 12月 ハイテクアリーナ竣工
- 2011年 4月 ペットビジネス学科をペット学科、動物看護学科、動物自然学科へ改称
- 2012年 4月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校を北海道エコ・動物自然専門学校へ改称 日本語学科を北海道ハイテクノロジー専門学校へ移行 ペットビジネス専攻科廃科 観光サービス学科廃科
- 2014年 3月 職業実践専門課程に動物自然学科・動物看護師学科・ペット学科が認定
- 2014年 4月 恵庭市恵み野こどもの集う場所「フーレめぐみの」の指定管理を学校法人産業技術学園が受託しオープン
- 2014年 7月 動物自然学科 定員増 40名⇒80名へ変更
- 2014年 7月 傷病鳥獣保護収容事業協力者登録
- 2015年 4月 専門実践教育訓練講座 動物看護師学科、ペット学科ペットトリマーコースが厚生労働大臣の指定を受けスタート
- 2015年 4月 動物看護師学科 動物病院シミュレーション室 新設
- 2015年 6月 野生鳥獣リハビリ施設 新設
- 2018年 4月 動物看護師学科、ペット学科を統合し動物看護・ペット学科と改称 ペット学科募集停止
- 2019年 4月 学校法人産業技術学園が、学校法人滋慶学園と合併し改称

## 自己点検・自己評価に対する姿勢

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させるシステムの開発に取り組んでいる。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っている。

また、学校関係者評価委員会を組織し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明をおこない、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等からの理解と参画を得て、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努める。

※ 教育システムを「養成目的と教育目標」（養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標）、「目標達成プロセス」（カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス）、「目標達成素材」（教科書、教材、教育技法）、「目標達成支援人材」（担任、専任講師、非常勤講師）、「評価基準」（透明性、公平性、競争性）の5要素で考えている。

## 学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、学校関係者評価委員会を組織する。評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進する。

評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行い、学校関係者等からの理解と参画を得て、意見・評価を頂いている。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていく。

# 教育理念

北海道エコ・動物自然専門学校は、職業教育を行う高等教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献するミッションを持ち、3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じ業界に直結した職業人の育成をするとともに、4つの信頼「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを目指している。

本校は、「動物に学ぶ」学校。動物と一緒に過ごす時間こそ学生の最大価値と考え、「人と動物がともに生きる社会を実現できる」人材を養成する。

## ※建学の理念

### ①実学教育

スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識・技術（テクニカルスキル）を身につける。

一人ひとりの個性を最大限に活かし、それぞれの業界で力が発揮でき、人に感動を与え、ビジネスマインドに富んだ「仕事ができる人材」を各業界との連携のもと養成を行う。これらを具現化するために、授業システムも動物と共に学ぶ実習を中心に実践的な授業を行い、動物・自然分野で求められる力を身につけられるように、万全の指導を行っている。

### ②人間教育

プロとしての身構え、気構え、心構えを持ち、他人への思いやりの気持ちを持った職業人を養成する。

また、専門職として仕事をする上で、常にサービスとケアを怠らず、細やかな対応ができるとともに、コミュニケーション力を持った人材育成を目指す。いかに技術的に優れていても人間性に欠けていたら信頼される職業人にはなれない。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育を行い、コミュニケーション能力やリーダーシップがとれる対人スキル（ヒューマンスキル）を会得し同時にたくましさも身につけていくことが目標である。そのため、本校は開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、あいさつを習慣にする指導にとりくむ他、産学協同イベントや卒業制作・卒業研究・ボランティア活動にも参加をしている。

### ③国際教育

言語を身につけるという狭義の国際教育ではなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。

『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導く。

そのため在学中は、海外の学校との交流や海外研修などの制度を活かし、それぞれの分野で先進的な取り組みをしている世界標準を学び、グローバルな視点とプロとして仕事をする心構えを育成する。グループワークを通して成長できる様教育を実践する。

## 学校の目標（今後5年間）

### 5カ年の目標

1. 業界・受験生双方のニーズを満たす教育を展開し、2021年までに全学科の定員を充足させる。
2. 2021年までに進級率を97%にする
3. 定員を充足させると共に、支出を見直し収支を安定させる

### 目標の意図と方策

#### 【意図】

1. 少子化の中で、業界に人材輩出を行うには、業界・高校生双方のニーズを満たす教育を展開し、選ばれ続け、定員を充足していくことが大切と考える。
2. もちろん、入学者全員の卒業を目指す様々な理由で退学になる方も一定数はいる。ただ、入学して1年以内でやめることは、業界のことや仕事のことを十分理解せずにやめることであると考え。そのため学校としては進級率を1つの大きな目標と捉えている。
3. 学校コンセプトである「**動物に学ぶ**」を体現するために、動物を学内で飼育する環境整備が必要。そのために安定した収支が必要である。

### 目標を達成するための方策

#### 1. 「動物に学ぶ学校」としてのブランド構築

学生が動物と関わりながら、自ら考えて学べる場を提供する。また、外部の方にも動物との関わりを提供し、それも学生の学びの場として活かしていきます。

#### 2. 授業の質向上に取り組む

学生がより主体的に学べるように授業の質向上に取り組む。講師との連携、ハード面の整備、カリキュラムの変更、評価基準の再編などを実施していく。

#### 3. 定員充足と支出の見直し

動物に学ぶ学校としてブランド化し定員を充足させると共に支出の見直しを行い、設備投資に予算を回せる体制を作る。



## 2019年度の重点目標

1. 「動物に学ぶ学校」としてのブランド構築
2. 学校学科再編に対応した強い学校作り
3. 自然分野商品の確立

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 建学の理念・目的について 職業人教育を通じて社会に貢献するというミッションを持ち、業界に直結した実践的な職業人の育成をしている。【動物に学ぶ】教育環境で、「動物と人と動物をつなぐ人材を育成する」ことを目的とした学校運営に努めている。</p> <p>2. 育成人材像について ディプロマポリシーを学校として明確に定め、「動物福祉」「環境保全」に関する知識を基盤とし自ら学び続ける意欲を持った人材育成を目指している。</p> <p>3. 特色について 「動物に学ぶ」をコンセプトに、犬・猫を始め <b>150 種 250 頭羽</b>の哺乳類・魚類・両性爬虫類など様々な動物との体験を通して、自発的に学べる環境を整えている。</p> <p>課題</p> <p>1. ディプロマポリシーに沿ったカリキュラムの改善。</p>	<p>課題</p> <p>ディプロマポリシーに沿ったカリキュラムの改善。 ⇒新しく設定したディプロマポリシーを元に講師とも議論を重ねカリキュラムを構築していく。</p>	<p>・道内で唯一、学内動物園を設置した専門学校。</p> <p>・動物看護ペット学科では、一人ひとりに担当犬がつく制度を設けて、日々の動物の変化に気付ける人材育成を行っている。</p> <p>・「動物福祉」を学ぶために、先進国のドイツへ海外研修先を変更。</p>

最終更新日付	2020年6月4日	記載責任者	菅原大輔
--------	-----------	-------	------

## 基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校運営・事業計画について 市場のニーズと学校の課題性を捉えた上で、運営方針を定めている。それを毎年の実行方針や目標に具体化している。また、運営方針の実行においては、定期的な会議の中で確認、対策立案、実行を行っている。</li> <li>2. 組織運営について 各学科長の裁量を大きくし、現場で素早く意思決定を行える仕組みを構築した。課題発生の際は関係者で集まり、素早く解決している。</li> <li>3. 意思決定システム・情報の一元化について 毎日の朝礼と終礼、月に1度の運営会議と全体会を中心に意思決定と情報共有を行っている。</li> </ol> <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会ニーズに即した新しい学科の開発</li> <li>2. 働き方改革に対応した ICT の活用</li> </ol>	<p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会ニーズに即した新しい学科の開発 ⇒学校関係者評価委員・教育課程編成委員を始めとして、学外からの情報を素早くキャッチし、それを議論し学科開発に努める。</li> <li>2. 働き方改革に対応した ICT の活用 ⇒学園グループ企業と連携をとって、学園全体で ICT を活用した業務改善に取り組む。</li> </ol>	<p>・運営方針の実現のため、学校運営会議、学校全体会議及び学科会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

菅原大輔

## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 教育目標・教育課程について 学科毎にディプロマポリシーをしっかりと定め、業界のニーズに対応出来る人材育成に取り組んでいる。</p> <p>2. 資格取得の指導体制について 資格取得の為に必要な支援講座を行っている。受験学生の状況に合わせてながら受験指導内容を検討し改善を行っている。</p> <p>3. 教員・教員組織について 業界で経験を積んだ教員や、卒業生の教員、さらに現場で現在も活躍する教員も確保している。それぞれの講師が意見交換などの交流を行うことで、教育の質向上を図っている。</p> <p>課題</p> <p>1. 実習における到達目標や成績評価基準の構築</p> <p>2. 授業評価システムの構築</p>	<p>課題</p> <p>1. 実習における到達目標や成績評価基準の構築 ⇒ルーブリック評価を活用し実習における到達目標を構築する。</p> <p>2. 授業評価システムの構築 ⇒学生授業アンケートを前期後期で実施し担当教員へフィードバックを行う。</p>	<p>・キャリア形成を目的にオープンキャンパス・入学前教育を行い、在学中はキャリア設計を意識したカリキュラムに沿って授業が展開され、卒業後はキャリア開発が出来るようにサポートを実施している。</p> <p>・就業年限 2 年間で 1 年前期・後期、2 年前期・後期の 4 つのステップに分けて段階を追ってスキルを上げて行ける様にシステムを構築している。</p>

最終更新日付	2020 年 6 月 4 日	記載責任者	菅原大輔
--------	----------------	-------	------

## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 就職率について  <b>3 月末の卒業生就職率は 84.0%、求職者就職率は 98.4%、専門就職率は 100%</b>と課題の<b>専門就職率は向上した</b>。年度末で残った<b>就職希望学生は 0 名</b>で、引き続き高い水準を保ちたい。</p> <p>2. 資格合格率について            資格取得の為に必要な支援講座を行っている。受験学生の状況に合わせてながら受験指導内容を検討し改善を行っている。特に<b>動物看護師学科では 94%→100%</b>に向上させる事が出来た。</p> <p>3. 卒業後の成果について            卒業生の活躍を集めた冊子を作成。約 30 名の卒業生を取材する中で、業界の方とも話をし、活躍や評価を聞くことが出来た</p> <p>課題</p> <p>1. 動物園水族館への就職率のさらなる向上</p>	<p>課題</p> <p>1. 動物園水族館への就職率のさらなる向上            ⇒全国や民間も含めた幅広い選択肢を学生に提供する。            また、卒業生などの受験経験者から情報を集めて公務員講座の精度を高めていく。</p>	<p>・日本動物園水族館協会加盟の園への就職者はここ数年安定して輩出出来ている。</p> <p>・自ら訓練所やトリミングサロンを立ち上げる卒業生も増えてきている。</p>

最終更新日付

2020 年 6 月 4 日

記載責任者

菅原大輔

## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 就職支援について キャリアセンターを設置し、職員を配置している。就職への動機づけ授業、就職に向けた面談、履歴書添削、面接試験対策、求人開拓や、学内外の企業説明会の開催・参加の案内にて学生の業界理解に努めている。</p> <p>2. 資格支援について 取得目標としている資格は、その業界で仕事をする上で重要な資格である為、全員の資格取得が出来るように受験対策を行っている。</p> <p>3. 卒後支援について 北専各連動物部会として「卒後セミナー」を開催している。また随時、卒業生からの転職相談にも対応している。「卒業後も気軽に尋ねられる学校」を目指す。</p> <p>課題</p> <p>1. 多様な悩みを抱えた学生のサポート</p>	<p>課題</p> <p>1. 多様な悩みを抱えた学生のサポート ⇒入学段階で様々な悩みを抱えた学生がいる。入試の面談や入学前登校で一人ひとりの状況をしっかりと把握し入学前から対応をしていく。</p>	<p>・学園全体の半数以上が日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度への相談体制ができてい る。採用の説明会についても丁寧に実施している。学 費は原則一括納入ではあるが、個々の家庭の状況を 鑑み、それぞれに合わせたプランの提案を実施してい る。</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

菅原大輔

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 施設設備等について 各教室・実習室に必要な教育機器を配置している。30年度は、ドッグルームの設置、犬用トイレの設置、動物舎のリニューアルを行った。</p> <p>2. 学内実習・インターンシップについて 学外実習については道内、道外問わずに 50 カ所以上におよぶ研修施設において実践的な実習を実施している。</p> <p>3. 防火・安全管理について 防火管理者、環境安全衛生管理者、衛生管理者、環境管理者、安全管理者による管理体制を敷いている。年に1回消防本部、環境整備関連会社による防災訓練を実施。防災教育にも力を入れている。</p> <p>課題</p> <p>1. 学校コンセプト強化に向けた施設設備の強化</p>	<p>課題</p> <p>1. 学校コンセプト強化に向けた施設設備の強化 ⇒「動物に学ぶ」コンセプトを強めるために、猫部屋の改修など更なる設備投資を行っていく。</p>	<p>・ドッグルームを新設。極力、広々とした環境で学内犬が過ごせる施設を作った。</p> <p>・犬用のトイレ部屋も新設。冬でも快適に使用できる環境を作った。</p> <p>・動物舎は植物を入れて動物にも人にも快適な環境を作った。</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

菅原大輔

## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 学生の募集について 「動物に学ぶ、自然に学ぶ」教育、そしてその結果としての卒業生の実績を、入学案内、WEB ページ、SNS 等を通じて積極的に発信している。</p> <p>2. 入学選考について 専修各連の定める募集基準に則り、AO エントリーは 6 月から、出願は 8 月から、その他の受験方法による出願は 10 月から受け付けている。募集要項に関しては、学費を全額表示するなど、受験生にとってわかりやすく掲載している。</p> <p>課題</p> <p>1. 道外からの入学生の確保</p> <p>2. 大学との差別化</p>	<p>課題</p> <p>1. 道外からの入学生の確保 ⇒道外向けの Web ページを作成し、在校生を中心に紹介。北海道で学ぶ価値を伝えていく。</p> <p>2. 大学との差別化 ⇒動物園・水族館への就職実績を大学に比べて圧倒的なものとし、それを高校への訴求していく。</p>	<p>・滋慶学園グループの8校で職業を紹介するイベントを高校生向けに開催。</p> <p>・Twitter やInstagramを活用し毎日情報発信を行っている。</p>

最終更新日付	2020年6月4日	記載責任者	菅原大輔
--------	-----------	-------	------



## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 財務基盤について            キャッシュフローの形態を重視し、収支バランスはとれており繰越収入超過金はない。ただ、平成 30 年度は学生数の減少に伴い、収入の減少があった。そのために無駄な経費を見直し、支出の削減にも努めた。次年度は学生数増加のため収入は増加。</p> <p>2. 予算・収支計画について            計画的な収支計画・事業計画を作成し、適正な予算執行を行っている。学内では、各学科での予算作成と予算執行を行っており、部署毎で適正に予算の運用を行っている。</p> <p>3. 財務情報の公開について            ホームページ上で情報公開ページを設定し、財務情報の公開を行っている。</p> <p>課題</p> <p>1. 継続的な入学生の確保による財務の安定</p>	<p>課題</p> <p>1. 継続的な入学生の確保による財務の安定            ⇒大学比較層、道外希望者からの入学生を増やして入学定員を充足させる。</p>	<p>・収支各項目の比率（広報費等学生募集に関する比率含む）を示すデータの変化は本部がチェックして、アドバイスを受ける。会計監査の体制として、公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。</p>

最終更新日付	2020 年 6 月 4 日	記載責任者	菅原大輔
--------	----------------	-------	------

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 関係法令・設置基準等の遵守について 法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っている。また、監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。</p> <p>2. 個人情報保護について 学生、保護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用を行っている。又、スキル向上のための取り組みとして IT リテラシー資格の取得や研修会を実施している。</p> <p>3. 学校評価について 自己点検・自己評価、学校関係者評価委員を実施し、学内外からの評価を適性に実施している。</p> <p>課題</p> <p>1. 高等教育の負担軽減など法改正への対応</p>	<p>課題</p> <p>1. 高等教育の負担軽減など法改正への対応 ⇒様々な法改正に対応すべく、学園グループのスクールメリットを活用し、学校間や学園本部と情報交換を行っていく。</p>	<p>・長期高度人材育成コースに、動物看護ペット学科のペットリマー専攻が認定を受けた。</p>

最終更新日付	2020年6月4日	記載責任者	菅原大輔
--------	-----------	-------	------

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 社会貢献・地域貢献について 傷病鳥獣のリハビリゲージを整備し、恵庭市・北広島市・千歳市で保護された傷病鳥獣の受け入れを実施。それ以外にも石狩振興局などからの依頼で、地域で放置された動物の受け入れを実施している。また、他の動物園などとの動物交換も積極的に実施している。</p> <p>2. ボランティア活動について 胆振・江別・札幌動物愛護フェスティバル、恵庭市と連携しペットマナー教室の開催など積極的に参加、企画運営することで、動物と社会をつなぐ活動も学生とともに実施している。</p> <p>課題</p> <p>1. 地域との持続可能な友好関係の構築</p>	<p>課題</p> <p>1. 地域との持続可能な友好関係の構築 ⇒地域活動に積極的に参加をし、地域から愛される学校作りを行っていく。</p>	<p>卒業生と連携し、在校生が主体となり、恵庭市役所と共催でペットのマナー教室実施。継続して実施が出来ており、参加して下さる地域の方の反応も良い。</p>

最終更新日付	2020年6月4日	記載責任者	菅原大輔
--------	-----------	-------	------

# 2019 年度重点目標達成についての自己評価

北海道エコ・動物自然専門学校 事務局長 菅原大輔

平成 30 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 「動物に学ぶ学校」としてのブランド構築</p> <p>2. 学校学科再編に対応した強い学校作り</p> <p>3. 自然分野商品の確立</p>	<p>1. について 動物種も <b>150 種 200 頭</b>に増え、動物に学ぶことが教育の中心になってきている。 平成 30 年度から担当犬制度をドッグトレーナー専攻から学科全体へ広げることも出来た。ドッグルームやトイレなど動物福祉に配慮した施設の整備も行うことが出来た。</p> <p>2. について 支出の見直しを行い、収支を改善した。今までは姉妹校とのスケールメリットで予算を効率的に運用してきた。そのメリットは活かしつつも、学校それぞれの特色を出すために独自の広報活動を強化した。</p> <p>3. について マーケットの縮小から、新学科の設立には至らなかった。今後は動物分野に特化して新しい学科専攻を作り上げていく。</p>	<p>1. 道内の高校生が減少していく中で継続的に入学生を確保していくこと。</p> <p>2. 動物園や水族館などの難関就職が厳しくなった時の在校生の意欲を持続させていくこと。</p> <p>3. 様々な学生がいる中で授業の質を向上させていくこと。</p>

## 2020年度の重点目標

1. カリキュラムと成績評価の一体改革
2. 「動物に学ぶ」を発信することでの入学生確保